

あきた

A-TURN INFORMATION MAGAZINE



日

2015

秋

vol.70

和

Aターンインタビュー

株式会社齋彌酒造店

営業部

小高慶彦さん

「自然豊かな秋田で子育てがしたい」
そんな理由で移住を決意しました。

Aターン者採用事業所のご紹介

株式会社 齋彌酒造店

A-TURN NAVI

秋田での移住相談窓口のご案内

秋田がんばるプロジェクト

NPO法人秋田パドラーズ

ディスカバー・アキタ

秋田っ子の給食

全国トップクラス!秋田の子どもの学力

秋田には心豊かになる
環境があふれています!

AKITAVISION

公益財団法人 秋田県ふるさと定住機構



高 興 な 田 舎
AKITAVISION

A-turn interview

千葉県出身の小高さん。東京で飲食・接客業を経験し『秋田で子育てがしたい』という理由から移住を決意。そんな彼のAターンとは？

What's A-turn?

Aターンとは？

「親の近くで暮らしたい」、「生まれ育った地元に戻りたい」というUターン希望の方も、「旅行して秋田が好きになった」、「秋田出身の妻に勧められて」というIターン希望の方も、みんな秋田に来てくださるとの願いを込め、オールターン(A I I T u r n)の“A”と、秋田(Akita)の“A”をかけたAターンと総称しています。

Aターンインタビュー

株式会社齋彌酒造店
営業部

よしひこ

小高慶彦さん(31歳)

「秋田に友人は一人もいませんでしたがそれ以上に秋田が好きだったので移住に抵抗はありませんでした」

『妻の実家が秋田だから』ではなく『秋田という土地が好きだから』移住を決めました

秋田県民の温かい人柄や自然豊かな環境に惹かれました

秋田には都会にはない魅力がたくさんあると思います

1902年創業、日本酒『雪の茅舎』で知られる由利本荘市の蔵元、齋彌酒造店。ここで営業として働く小高さんは、千葉県出身。東京の専門学校で商業を学び、卒業後は東京のレストランへ就職。フランス料理の調理を経験後、居酒屋へ転職しました。

——以前の仕事内容と、秋田へ移住しようと思った理由を教えてください。

「居酒屋では店長業務を任せられ、調理や接客、お酒の発注も担当していました。秋田への移住を決めた理由は、2歳になる娘を自然溢れる土地でのびのびと育てたいという思いから。妻が秋田県にかほ市の出身なので結婚前から秋田には何度も行っており、秋田県民の温かい人柄や、自然豊かな環境に惹かれていたことも大きいですね。また、秋田でお酒を飲む機会が多く『雪の茅舎』は居酒屋にも仕入れていましたが、当時はまさかそのお酒を造る会社で働くようになるとは想像していませんでした。」

——採用までの経緯を教えてください。

「今年1月にAターン登録をして、まずは情報収集から始めました。住まいは沿岸部を希望していたので、由利本荘市役所に相談。その際、市役所の担当者が熱心に調べてくださり、人の温かさ、親切さに感動しました。こうして調べていくうちに、齋彌酒造店の求人を発見。あの『雪の茅舎』を造っている企業だと知り、さらに由利本荘市にあることから『これはチャンスだ』と思い、受けてみることにしました。」

——実際に仕事をしてみていかがですか？

「酒販店への提案など、先輩に同行しながら勉強中です。お酒は出来上がるまでの工程ひとつひとつにドラマがあり、造り手の思いやこだわりが詰まっています。前職では自分がおいしいと思ったお酒をお客様に提供するだけでしたが、今は蔵元の営業という立場で、酒造りの深い部分まで理解することが大事だと実感しています。今後は前職の経験も活かし、お店と蔵元両方の立場で考えながら、齋彌酒造の日本酒を県外・世界へ広めていきたいと思っています。」

——Aターン前後で生活面に変化はありましたか？

「東京ではマンション暮らしだったため近所付き合いはありませんでしたが、今は町内のイベントに参加したり、お祭りの準備をしたり、地域の行事に積極的に参加するようになりました。休日は家族で外出することが多く、近くの海で釣りをしたり、鳥海山や土田牧場に行ったり、毎週イベントを探しては出かけています。」

——最後に、Aターンを検討されている方へメッセージをお願いします。

「秋田はよく『何もない』と言われるのですが、決してそんなことはありません。都会のような便利さは乏しくても、秋田には心が豊かになれる環境がたくさんあります。そんな秋田の魅力を見つけて欲しいですし、自分も発信していきたいです。」



「日本酒は飲むことで話が広がり、人の輪が広がります。そういう意味でも単なる嗜好品とは違った良さがあると思います」と、日本酒の魅力を語る小高さん。「将来、千葉の実家に戻ったときに、周囲から『雪の茅舎が飲みたいな』という声がかかってくるくらい、自慢の美味しい日本酒を県外に広めたいです。」



Message

取締役
統括本部長
佐藤昭久さん

日本酒の魅力や個性を理解し世界へ発信して欲しい

小高くんの初対面の印象は、お酒に興味があって熱心な若者だと感じました。入社してまだ2か月ですが、真面目に一生懸命働いています。お酒を売るためには、お酒をより深く理解することが重要ですので、入社後は誰でも一度は酒造りを経験してもらいます。小高くんにも酒造りを経験してもらおうつもりです。求める人材は、お酒が好きなどが最低条件。今、秋田のお酒が全国や世界から注目されるようになりました。秋田が中心となって、秋田が誇る日本酒を世界中へ届けていきたい。そんな情熱のある人に入社してもらいたいです。



秋田へ移住することに関して、千葉に住むご両親の反応を何うと「当初は冬の雪の大変さなどを心配して『ちゃんと生活できるの？もっと考えたら？』と言われました。しかし、両親も何度か秋田を訪れる中で、自然の素晴らしさや環境の良さを理解してくれたようで『今のうちに好きなことをしなさい』と好意的に受け止めてくれるようになりました。」



NO.010

株式会社
齋彌酒造店

Recommend Company

Aターン者採用事業所のご紹介

明治35年、鳥海山を望む由利本荘市に初代齋藤彌太郎氏が創業した蔵元、齋彌酒造。
杜氏をはじめとする蔵人が自ら酒造好適米を栽培し、自慢の米で酒造りをしています。
代表銘柄「雪の茅舎」をはじめ、全国新酒鑑品会において数々の受賞歴を持つ名蔵元です。

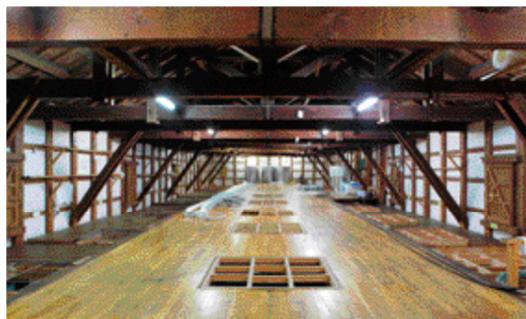


齋彌酒造の歴史

初代齋藤彌太郎により明治35年(1902年)に創業。
茅ぶき屋根の民家が点在する雪深いこの地の冬景色を表現した日本酒「雪の茅舎」を造り出し、その伝統の技を今に伝えています。創業当時のまま残る蔵や、2階に洋風のデザインを取り入れた独自の意匠を持つ店舗などは、国の登録有形文化財に指定された貴重な建造物でもあります。

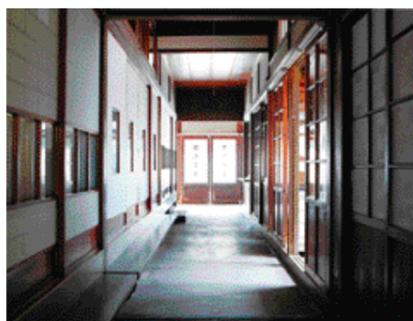
伝統の酒蔵

高低差約6mの傾斜地に建てられた酒蔵は、通称「のぼり蔵」と呼ばれています。蔵上方の精米所に米が運ばれ、敷地内で湧き出す新山の伏流水で仕込み、工程が進むにつれて下に移動し日本酒となって下りてくる構造です。また、麹室は厚い秋田杉の板を全面に使用し、杉材が呼吸をして湿度を調節し、麹にとって最適な環境を整えています。



酒造りの特徴

齋彌酒造で使用する主な原料米「秋田酒こまち」は、蔵人たちが自身の手によって毎年地元で育てられた新米です。さらに、地形の高低差を生かした蔵の構造、新山の良質な湧き水、酒造りに関しても「かき入れ」をしないなど、あくまでも自然の力による酒造りを実践していることが最大の特徴です。また、20年以上前から酵母の自家培養にも取り組んでいます。



代表銘柄
「雪の茅舎」

DATA

株式会社齋彌酒造店

〒015-0011 由利本荘市石脇字石脇53
TEL.0184-22-0536
FAX.0184-24-4558
http://www.yukinobosha.jp/



「移住のこと、教えて欲しい!」そんな時、頼れる窓口があります。

秋田での移住相談はこちら

NPO法人秋田移住定住総合支援センター

- 県内ワンストップ移住相談窓口です。
- 地元秋田ならではの“きめ細やかでホットな”情報で皆さまの相談にお応えします。
- 電話やメールでも相談できます。



秋田で暮らす、
はじめての一步を
お手伝いします。

【移住希望登録のメリット】

秋田への移住をお考えの方は、移住希望登録により、次のサービスが受けられます。

- 1 いつ・どこで・どんなライフスタイルで・何をしたいのかに応じて、情報を個別にお届けします。
- 2 支援メニューや相談会などの移住支援情報をお届けします。
- 3 移住された会員の方には、秋田の特産品の贈呈をはじめとする「おとく区メニュー」で歓迎します。
- 4 既移住者との交流会などにより定住をサポートします。
- 5 移住した後の定住に関する相談もできます。

《ご登録・お問い合わせ先》 NPO法人秋田移住定住総合支援センター

〒010-1413 秋田市御所野地蔵田3-1-1 秋田テルサ1F TEL 018-893-3981 Email yokoso@a-iju.jp
受付/月曜～金曜 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

移住情報や移住希望登録はこちらから

県移住・定住ポータルサイト 「秋田暮らし」はじめての一步

「秋田暮らし」はじめての一步には、秋田への移住・定住に関する情報が満載です。秋田移住定住総合支援センターへの移住希望登録は、本センター及び東京相談窓口、「あきたで暮らそう! Aターンサポートセンター」でも行うことができます。

秋田に住む

- 県・市町村公営住宅情報
- 空き家バンク など

秋田で働く

- Aターンについて
- 農林水産情報
- 起業相談窓口
- 求人情報 など

秋田を知る

- 各市町村のご紹介
- 秋田の自然・食・教育・祭り など

移住者の声

- 移住の心得
- 移住者インタビュー



秋田暮らし 検索
http://www.a-iju.jp/

秋田がんばるプロジェクト

NO.010



楽しみながら環境保全に貢献

カヌーをこよなく愛する団体「特定非営利活動法人秋田パドラーズ」は、雄物川を中心にカヌークルージングを楽しみながら、クリーンアップ活動や、震災支援を積極的に行っている。理事長を務める船山仁さんに話を伺った。

自然と一体になる方法はすぐそこにある些細なきっかけ

2003年に設立された「NPO法人秋田パドラーズ」。元々は、雄物川を中心にカヌーの愛好者が集まりカヌークルージングを楽しむ団体として1996年に始動。現在理事長を務める船山さんも純粋にカヌーを愛する一員だった。

「実は私の本業は美容院の経営で、今年で18年目になります。カヌーに出会ったのは現在の店舗をオープンしたばかりの頃、知人に勧められ始めました。ただ、毎日が仕事に追われる日々だったため、正直なところカヌーをやるような時間も気持ちの余裕もなく、5年間断り続けていたのですが、あまりの熱心な勧誘に心打たれ一度だけ同行しカヌーを初体験しました。その一回で私の人生は変わりました。言い過ぎかもしれませんがカヌーがあれば自然と一体になり、心を豊かにしてくれるものだと想像もしていませんでした。それほど、私にとっては衝撃的な出会いでした。」

やらされるのではなく、個々が自ら行動することの意味

活動の拠点である雄物川は、日本で唯一の国際カヌークルージング場に認定されるなど、全国の一級河川の中でも類のない豊かな自然をいまだ有している数少ない川である。

「カヌーを始めてから、川の汚れやゴミの多さに驚きました。そのゴミの量はひどく、とても放っておくことの出来るレベルではありませんでした。ごく自然にゴミ拾いを行うようになりましたね。これが、クリーンアップ活動を行う「NPO法人」を立ち上げたきっかけです。現在では約170名ものメンバーが参加していますが、始めは純粋にカヌーをすることを目的とした方々でした。カヌーを体験した人のほとんどが、自然とゴミ拾いをしてくれるようになりました。これには心打たれました。自然に触れたことで、環境を大切にしようという意識が芽生えたのだと思います。」

色鮮やかな紅葉を見ながらのカヌークルージング。いつもより高く広がる空、パドルを漕ぐたびに吹く心地よい風と、波の音。子供も大人も自然と一体となり、心が解放され笑顔が溢れる。

変えることも変わることもなく自然のままに

パドラーズは“楽しむこと”を前提とし、カヌーをはじめキャンプや釣りなどさまざまなアウトドアを通して川や町の環境整備、青少年の育成、生涯教育の場や機会の提供なども積極的に行っている。それらの活動が評価され、設立からわずか3年後の2006年には秋田県環境大賞を受賞。2011年に東日本大震災が起こると、何度も被災地へ足を運び、がれき処理や泥上げなどの支援活動を行った。

「自然から学ぶことは本当にたくさんあります。自然の中では協力することがなにより大切です。それぞれが自分の役割を捉え責任をもって行動し、お互いを信頼し合う。森や川や山が教えてくれるその精神は、私たちが生きている社会の中でも必要なことだと思います。私が行っている活動のすべては自然から教わったこと。これからも、人々が健やかに暮らせる地域社会づくりに貢献していきたいです。」



台風や洪水が起きるとゴミが溢れる雄物川。自然を守るために子供たちも自らお手伝い。

船山 仁さん

HITOSHI FUNAYAMA
ふなやま ひとし
特定非営利活動法人 秋田パドラーズ理事長
「active cut design arc」代表取締役。

自然に触れ、自然から学ぶ。そこから生きていくコツを見出して欲しい



キャンプ体験では、水を汲み、火をおこし、テントを張る。アウトドアを通して、生きていく上で欠かせないヒントを学ぶことができる。



DISCOVER AKITA

ディスカバー・アキタ

アキタになんて何にもないでしょー、なんていわせない！都会に負けない、アキタならではのカルチャーをご紹介します。

【今回の再発見】 VOL.010

秋田の給食



優勝した給食メニュー。舞茸やとんぶり、あきたこまちなど、ふるさとの食材をふんだんに使用し地域らしさを出している。

秋田っ子の給食には地域の食材や郷土料理が登場します。

2014年、地元の食材を使って栄養価などを競う「全国学校給食甲子園」で、藤里町学校給食センターが秋田県代表として出場し、見事に全国の頂点に立った。優勝した給食メニューは『白神あきたこまちのみそつけたんぼ』『枝豆のかわりがんも』『とんぶりあえ』『白神舞茸のうどん汁』『山葡萄のゼリー』『牛乳』の6品。これらを考案・調理した栄養教諭の津谷早

苗さんは「特別な食材や変わった調理法は何もありません。ごく一般的な調味料だけを使用して作りました。きっと、秋田の食材そのもののおいしさが高く評価されたのだでしょう」と話す。

秋田っ子の給食の魅力は、『ハタハタ』や『山菜』といった地元産の食材や、『きりたんぼ鍋』などの郷土料理が登場すること。他県の人から見たらうらやましく感じるかもしれないが、秋田で

はこれが当たり前。「秋田には海の幸山の幸、たくさん食材があります。子どもたちには、給食を通して地域の良さや食材の豊かさを感じ取ってもらいたいです。たとえすぐに結果が出なくても、卒業して町を離れたときや親になったときに気づいてもらえたら」と津谷さん。どうです？ 秋田っ子の給食、味わってみたいかったです。

秋田の子どもは、学力が全国トップクラス！



子どもの学力が全国トップレベルで名高い秋田県。平成27年度に行われた全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)でも、小中学校あわせた10教科のうち6教科で都道府県別の平均正答率が1位という結果になりました。全国から注目されている、秋田っ子が賢く育つ秘密とは？



秋田の探究型授業は全国から注目の的！

①子どもたちが積極的に授業に参加できる学校空間

教師・学校によるきめ細かくあたたかい授業づくりや生徒指導が、子どもたちの意欲を高めています。

②子どもたちの思考を促し、深める授業づくり

子どもたちが自ら考えることを大切にする授業展開を重視しています。

③自発的学習を生み出すきめ細やかな指導

授業の復習など、子どもが家庭学習に自ら取り組むことを促す指導をしています。

④豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

学校・家庭・地域の連携が、全国トップクラスの秋田っ子を支えています。



一人ひとりへの指導が行き渡るよう、1クラス30人程度の少人数学級体制を小学校、中学校で実施しています。

■平成27年度の全国都道府県順位

教科	小学6年生	中学3年生
国語A(知識)	1位	1位
国語B(活用)	1位	1位
算数・数学A(知識)	1位	2位
算数・数学B(活用)	1位	2位

※データの出展：「平成27年度全国学力・学習状況調査結果」(文部科学省)

A ターン交流会を開催します

県外在住でAターンを希望されている方と、県外からAターンをして秋田で活躍する方との交流会を開催します。

秋田のお土産を囲みながら、都会と秋田の両方で働いた実体験を聞き、Aターンの準備に役立てませんか？

Aターンの経験者と直接お話ができるフリートークの時間もあります。カジュアルな服装で、お気軽にご参加ください。



A ターン経験者に聞く～秋田で働くこと～A ターン交流会

★日 時 平成27年10月18日(日)
13:00～14:50 (受付12:30～)

★場 所 NPOふるさと回帰支援センター
(東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館5F)

★内 容 第Ⅰ部 13:00～13:40
体験談を聞く～県外(首都圏等)で働くこと、秋田で働くこと～
第Ⅱ部 13:40～14:30 意見交換会
第Ⅲ部 14:30～14:50 個別相談会



- 参加対象者 県外(首都圏等)在住で秋田(地方)での就職を希望する若者(概ね35歳以下)及び県外(首都圏等)在住の学生の方
- 参加費 無料
- 定員 15名(定員に達した時点で締切となります)
- 申込方法 メールまたはFAXに氏名・年齢・住所・連絡先・参加人数を記載のうえ、以下の宛先までお申し込みください。
- 申込締切 平成27年10月9日(金)

【お申し込み・お問い合わせ】

秋田県産業労働部雇用労働政策課

TEL.018-860-2334 FAX.018-860-3833 Email syokuan@mail2.pref.akita.jp

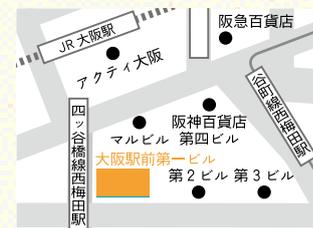
【A ターン相談窓口のご案内】

●A ターンプラザ秋田

相談日 月曜日～金曜日(祝祭日・年末年始は除く)
相談時間 9:00～17:45
場 所 〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館7F(秋田県東京事務所内)
アクセス 東京メトロ
半蔵門線/南北線/有楽町線
<永田町>下車 出口5
★地下道にて都道府県会館B1に、直接入れます。
連絡先 0120-122-255 FAX: 03-5212-9116
email: a-plaza@coral.broba.cc



〈その他の県外窓口〉



●あきたで暮らそう！A ターンサポートセンター

(就職相談)
相談日 火曜日～土曜日(祝祭日・年末年始は除く)
相談時間 12:15～18:00
(移住相談)
相談日 火曜日～日曜日(祝祭日・年末年始は除く)
相談時間 10:00～18:00
場 所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館5F(ふるさと回帰支援センター内)
アクセス JR山手線・京浜東北線 有楽町駅
<京橋口・中央口(銀座側)>下車
徒歩1分
連絡先 TEL: 080-9292-5195



●北東北三県 名古屋合同事務所
〒460-0008
名古屋市中区栄四丁目1-1中ビル4F
TEL: 052-252-2412

●北東北三県 大阪合同事務所
〒530-0001
大阪市北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第一ビル9F
TEL: 06-6341-7897

A ターン登録についてのお願い

住所等の登録内容変更のほか、A ターンしたため登録を取り消したい場合には、電話・メール(info@furusato-teiju.jp)でご連絡ください。特に住所が変わった場合には、情報がお手元に届かなくなる場合もありますので速やかにご連絡ください。郵便物が届かない方には、電話でご連絡させていただく場合がございます。